

「問題」としてのゲル地区

ウランバートル市ゲル地区の街路改善プロジェクトから

滝口良 (日本学術振興会特別研究員 DC2 北海道大学大学院文学研究科)

本発表はモンゴル・ウランバートル市の周辺部に広がるゲル地区を対象とし、同地区における土地利用管理および街路整備のプロジェクトをとりあげる。発表の前半部ではウランバートル市ゲル地区の特徴として、ゲル地区が「問題」として様々な関心を集めていることを論じ、後半部ではゲル地区が抱える「問題」の一つである土地利用に対して行われる二つのプロジェクトをとりあげ、ゲル地区への具体的な関心のありかたと改善への方策を明らかにする。これらを通じて、科学的な知や社会的な政策を通じてゲル地区という場所が対象化され、改善が目指されることと、この対象化と改善への動きの中でこれに「抵抗する諸力」が現れてくることを明らかにする。

まもなく民主化後20年が経過する現在のモンゴル国では、首都ウランバートル市に総人口の半数近くが集中しつつある。この人口集中の受け皿となっているのは、ウランバートル市の周囲に広がるゲル地区である。この「ゲル地区」は、ウランバートル市においては、中心部の近代的なアパートとは区別された、柵に囲われた土地の中に伝統的移動式住居であるゲルないし固定家屋を建てて暮らす人々の地区を指している。市場経済化後のアパート住宅の供給不足と高騰によって都市への移住者の多くがゲル地区に居住するようになり、現在ではウランバートル市の総人口の半数以上がこのゲル地区に居住している。

拡大を続けるゲル地区は、ウランバートル市にとって大きな問題となっている。ゲル地区住民の収入調査や意識調査などの社会的調査、土壌汚染や水質汚染などの科学調査が行われ、その改善のための政策がとられつつある。本発表があつかう二つの街路改善プロジェクトもゲル地区における土地利用を管理する一連の動きの一つであり、ゲル地区の土地利用の様々な「問題」を改善することが目指されている。また、ゲル地区に対する政策や調査の主体は市行政のみではない。国際機関や研究機関もまたゲル地区をその調査対象としはじめている。現在のゲル地区は様々な政策主体、調査主体によって「問題」としてとりあげられ、その改善をめざす社会政策と科学調査が向かう焦点となっているのである。

ゲル地区に対する政策や調査は現代のゲル地区の問題を以下のように描き出す。インフラ整備が不十分であること、ゲル地区に貧困世帯が多いこと(収入調査による)、中心部のアパートに住みたいが生活状況から暮らすことができない世帯が多いこと(住民意識調査による)。そして区画や街路の秩序を無視して土地に居住している現状(GPSを利用した地籍図による)。こうした一連の調査結果と改善計画によってゲル地区は、最も典型的には「スラム」という「問題」を抱えた場所としてとらえられていく。

その内実は多様であるはずのゲル地区は、スラムとして「問題」化され、「改善」のための数多くの調査や政策の対象となっている(以下ではこれを「問題-改善の枠組」とする)。だが、このようなゲル地区における問題-改善の枠組には「抵抗する諸力」が存在しており、それは人の意思や行為として、時には物質として現れている。この「抵抗する諸力」はプロジェクト側からすれば、「利己的」、「公共の利益への無理解」、「古い、都市的でない考え」などとして解釈される。以上のことをゲル地区の「問題」の一つである土地利用を改善する二つのプロジェクトの分析によって明らかにする。

取り上げるプロジェクトは以下の二つである。1)ウランバートル市土地局の行う区画整理プロジェクト(市行政による区画整理とそれに伴う土地所有者としての地域住民の意識改革に関わるプロジェクト)、2)「首都ウランバートル市産業改善計画-2」の支援を受けた民間組織による住民の立案・計画に基づいた街路に関わるプロジェクト(地域住民自らが企画運営し、地域住民が参加して街路を安全・清潔にしようとするプロジェクト)である。

この二つのプロジェクトは、共にゲル地区の具体的な姿や外観を変えることを目指すと共に、ゲル地区の住民の意識を変革することを目指している。両プロジェクトが描くゲル地区の問題-改善の枠組は異なっており、またゲル地区の住民に対してプロジェクトの説明や教示を行う方法も異なっている。そして、それぞれのプロジェクトが直面する困難や課題(たとえば、区画整理に応じない住人など)は、ゲル地区の問題-改善枠組が機能しない、「抵抗」する領域を示している。

ゲル地区をめぐる「問題-改善の枠組」と「抵抗する諸力」の分析を通じて、ゲル地区を「スラム」として問題化することに批判的距離をとることができるだろう。そのことにより、ゲル地区を、知と政策と、そして多様な行為者や物質が結びつく中で、形づくられているような場所として捉えなおすことが可能となる。